

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200058		
法人名	有限会社 大矢野会		
事業所名	グループホーム おおやの(みどりユニット)		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上1520番地8		
自己評価作成日	平成27年10月31日	評価結果市町村受理日	平成28年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋造りで、事務所を中心に2ユニットの造りの施設になっており、入居者・スタッフが自由に行き来ができ、お互いに交流し情報を共有することにより、協力できるよう努めています。ホーム内は、談話室と台所を一体化することにより、入居者の状態を把握することができ、すぐに対応できるようしています。隣接する医院との医療連携により、入居者及び家族に安心していただける環境・体制づくりに努めています。また、家族とのかかわりを大切にし、毎月担当者からの近況報告、並びにホーム広報を送付しています。2回/年の家族会は、運営推進会議と合同開催し、多数の皆さんの参加協力を得ることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所10年の節目を迎えたホームでは、この秋、入居者や家族、運営推進会議のメンバーが参加して祝いの会が催されている。入居者や職員の中には開所当時からの方もおられ、移動の少ない変わらぬ環境が安定した日々を支えている。毎日の日課としているモップがけに勤しむ入居者が玄関に立った来訪者を見て、「あら、間に合わなかったな、もちょっと早よからせにやんだった！」と、言われた一言が人をもてなす気持ちにあふれ、何とも嬉しい言葉として耳に入ってきた。10年の経過は入居者のADLの低下をもたらし、職員はなるべく入居者に寄り添って言葉を交わすことにこだわり、互いの負担軽減に介護用ベッドを新たに導入するなど、心身両面から現状を支えている。昨年より災害時の避難経路の整備や書類庫の建設に携わったり、花処として知られる天草で季節の花を絶やさないう、入居者の目を楽しませるなど環境整備にも力を注いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の再確認を行いながら実践につなげるよう努力している	開所時からの理念は職員の中に浸透し、本年度はその中の一つ『敬う気持ちを忘れずに』に焦点をあて、会議の中で振り返る機会を持っている。新たに入職した職員に理念を通してホームの方針を伝え、先ずは入居者一人ひとりとゆっくり関り、コミュニケーションを図ることからスタートするよう導いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方の訪問、広報配りを継続しながら交流を続けている	入居者は職員と共に近隣のスーパーや洋品店などで必要な品を購入したり、周辺の住民へ広報誌を届けるなど、外出を兼ねた地域交流を継続している。また、災害時の協力依頼も合わせて行っている。学生や地域ボランティアの来所、退去後も家族が差し入れを持って訪れるなど長い付き合いが続いている。	運営者は、地域の人々と更に身近に交流できるよう花見などのホーム行事に声かけをしたいとしており、今後の展開が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、高校福祉科実習生の受け入れなどを行っている 運営推進会議等において意見交換等行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議や家族会など意見交換を行っている	年6回の会議の中に家族会とタイアップして敬老会や開所祝いを開催している。普段の会議には行政や地域・家族代表者が参加し、ホームの現状を伝えながら広く意見を求めている。会議の雰囲気参加者の発言を引き出し、多様な提案が運営に反映されている。駐車場に通じる道を避難経路として整備しており、災害対策の強化やベッドのリニューアルなどについても報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会などに参加していた だき協力関係を築くようにしている	運営推進会議には行政の参加があり、介護保険に関する情報などの説明が行われている。管理者は制度上の質問や相談事について直接役所を訪れ、適切な指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠しておらず所在確認を行っている	日中の玄関は常にオープンであり、職員は理念に掲げた『敬いの心』を意識しながら入居者の出入りを見守り、行動を制限することなく接している。ホーム内研修で認識を深め、スピーチロックについては再び時間を設け共有している。センサーマットなども使用しておらず、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングを行い虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行いながら支援し活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に施設長、管理者で説明している 改定等の際は、家族会や面会時に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに、ゆっくり話す時間を設け意見交換ができるようにしている	職員は入居者の気持ちを雑談の中からくみ取ったり、各居室を訪れ1対1でゆっくり話を聞くよう心掛けている。また、家族には年2回の家族会や普段の面会時に、入居者の近況を交えながら意見の引き出しに努めている。家族が意見・苦情を申し立てる外部機関をホーム内に掲示し、啓発を行っている。	様々な形で入居者や家族から忌憚のない意見を求めているが、10周年の節目でもあり質問内容を十分検討したうえで、アンケートの実施なども一案と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い意見を聞いたり申し送り帳などを活用している	普段から職員が発言しやすい環境作りに努めており、出された意見を先ずは全員で試してみることから始めている。職員の提案によりさらにユニットでは水分補給前にラジオ体操を実施しているが、強制はせずリハビリの一環として賑やかな時間となっている。また、年月の経過はベッドにも影響し、家具調ベッドから介護用ベッドに入れ替えるなど入居者や職員の負担軽減にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	日々の勤務の中で把握に努め、職場環境等意見交換を行いながら、整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修参加後、研修報告を行い、また、ホーム内においても各自テーマを決め取り組み、発表を行っている 研修案内等は回覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に所属、研修会等を通し交流を行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し信頼関係を築く努力をしている 情報収集もとれるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護負担を理解し、安心してホームに任せられるような信頼関係を築く努力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを十分に理解した上で必要とするサービスの説明や紹介を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることには手を出さず本人の意思を尊重するように心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告で状態を伝え、また随時報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との面会や家族の協力で外出などお願いしている	入居者にとって家族や知人の面会は何より喜ばれる時間であり、気兼ねなく過ごしてもらおうよう声掛けをしている。開所時からの入居者にとっては10年という月日が経過しており、近隣のスーパーや小売店はすっかり顔なじみになっている。入ってもまた、汚れるからと日中の入浴を拒否される方へは夕方に対応したり、三度の食事にゆであずきを希望する方を家族と共に支援するなど、個々のこだわりにも目を向けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入ったり、なじみの関係をつくれるよう支援している となりのユニットや病院への散歩、面会も支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も交流を深めボランティアの参加など親交がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を常に聞くように心掛けミーティングやカンファレンスなどで検討しケアに活かすように努めている	一人ひとりの思いに寄り添い記録に残しながらプラン作成に繋いでいる。ベッド中心の生活になられた方へも食事介助の際の表情や仕草から好き嫌いを見極め、ゆっくりと話しかけることで安眠を促すなど、入居者に応じた支援を心掛け思いに近づく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とのコミュニケーションの中で把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録などで常に現状把握するようにしている 申し送りやミーティングでも共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画ができるようにスタッフ間でカンファレンスを行っている 家族にも現状を説明し意見を聞くようにしている	本人・家族の意向をもとにプランを立案している。担当者会議には全職員が参加し、入居者の現状をピックアップしながら課題点を見出し、必要な支援内容を見極めている。入居間もない方が一日でも早くホームに溶け込んでもらうよう、意欲の欠如や腹痛の訴えなどの課題に安心してもらうことを最優先にプランに盛り込んでいる。プランはわかりやすい言葉で説明し、添付した別様式にて了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録に加え、ひやりハットなどでスタッフの気づきを共有し、ケアの見直しに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要なニーズに対応できるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや小売店など利用したり地域の方と交流できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣医院と医療連携をとっており、緊急時にも対応できるようにしている	緊急時対応などの面から入居時に協力医に変更される方も多く、現在は全員が隣接する協力医療機関をかかりつけ医とされている。往診や24時間の医療体制は家族や職員の安心にも繋がっており、職員はバイタルチェックや体重測定に加え、表情や動きなど日々の関わりの中で異常の早期発見に努めている。定期受診に向かう入居者の表情からも協力医との信頼関係が窺われ、元旦には院長によるお屠蘇の振る舞いが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェックを行い変化時には対応できるよう訪問看護師とも連携がとれるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院との情報交換を行い、必要に応じてカンファレンスにも参加している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には主治医を含め家族や医療関係者も話し合いに参加してもらい全員で方針の共有ができるように努力している	重度化や終末期支援について、入居時に指針をもとに説明や意思確認書を交わしている。家族の思いは変化するものであり、身体状況から判断し医師や家族を交えて最終的に意向を確認し今後の方針を決定している。今年度も本人・家族の思いを汲み取りながら、医師・看護師・介護スタッフなどの連携により看取り支援が行われている。人生の最終を支援するという重要な場面であり、運営推進会議でも看取り介護への取り組みについて説明や今後の課題(職員の看取りに対しての不安軽減や研修などによりスキルアップをはかる)が報告されている。	敬う気持ちを忘れず、安心して生活できる環境の提供に努めており、今後ともご縁のあった方々に最良の時間を過ごせるホームとして取り組まれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修でも取り上げ勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を行い順次確認をしている また非常食の準備もしている	年2回の消防訓練や災害時の避難・手順の確認、備蓄により有事に備えている。運営推進会議の中で訓練内容や消防署による講習、見直した事項を報告している。また、会議へ参加した家族から津波災害時の避難について確認され、海抜や大矢野庁舎を避難場所として依頼済であることを回答している。火元点検はホーム管理日誌の中で時間とサインを記入している。	この夏はホーム前の県道が浸水する災害が起きている。今後も火災と合わせ自然災害について訓練や、意識を強化する機会を持たれることに期待したい。また、非常食については、事前に職員が硬さなどを確認しておく必要があると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ちを忘れず速やかに対処できるように配慮している	入居者の尊厳やプライバシーに配慮した対応については、理念に掲げた『敬う気持ちを忘れずに接します』を心にとめ、日々の支援にあたっている。入居者の写真など個人情報の使用については家族の了解を得、職員の守秘義務の徹底についても指導が行われている。今年度、重要書類の保安倉庫が敷地内に建てられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望、思いを傾聴、把握し自己決定ができるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はせず本人のペースに合わせたケアができるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望する服装や季節にあった衣類の調節ができるようケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みや形態を把握し、できるだけ希望に添った食事ができるよう努めている 後片付けも一緒に行うようにしている	ホーム菜園の野菜や差し入れや等を活用し、希望を取り入れながら家庭的な料理が提供されている。調理は専任者を中心に行われており、入居者は近隣スーパーでの食材購入やピースの皮むきなどの下準備、片付けなどできることで食への関わりを持っている。「この魚が今はうまかよ」「煮付けがよかよ！」など、買い物の際も入居者のアドバイスを活かしながら選択している。正月や母の日などの祝い膳、敬老祝いを兼ねた家族会での合同食事会など工夫された楽しい食事支援の状況は聞き取りや広報誌からも確認された。	昼食時に団子汁を食べながら「私はみそ味が好いとる～！」「このみかんはどこのだろうか～甘か～！」入居者の発せられた一言から、会話は次々と弾んでいる。職員も同じ物を食べながら思いを共有し、食形態や介助など個別支援にも努めている。今後も入居者にとって楽しい食事支援が継続されることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックは毎日行っている 月1回体重測定もしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行い、清潔が保てるよう介助している ブラシやスポンジの使用も行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方のみオムツ使用している なるべくトレパン、尿とりパッド使用し布パンツの方もおられる	一人ひとりの状況に応じた排泄用品を検討しながら、自立の継続や失敗のない排泄支援に取り組んでいる。職員は声かけや誘導、オムツ交換時はプライバシーや尊厳に配慮した対応を共有し、トイレやポータブルトイレも清潔に管理を行い気持ちよく使用できるようにしている。自立でトイレに行かれる方にさりげない見守りやサポート、排泄用品を交換する際も職員のチームワークの場面が確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、それぞれ適切な方法で排便コントロールできているようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後から入浴している 時間や日にちの強制はしない	入居者の希望を確認しながら午後入浴に取り組んでいる。拒否の場合も無理強いをせず、清拭や着替えを行いながら間隔が空かないように支援している。また、2名介助での入浴など安全面にも配慮しながらゆっくりと入ってもらうようにしている。端午の節句では菖蒲を頭に巻いたり、湯船に入れるなど古くからの慣習を楽しむ支援が行われている。	明るい浴室でゆっくりとした入浴支援が実施されており、今後は浴室内の物品の収納などを見直すことで、更に寛げる入浴環境に繋がると思われる。取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思や体調に合わせて安静時間を保つようになっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理しており随時確認する 薬剤情報で内容も確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や体調をみながら出来ることを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の外出はスタッフで行い遠出は家族で行ってもらっている	入居者は移り行く季節を楽しみながら散歩や散策を行っている。身体状況から全員での外出は困難になっており、近隣商店へ食材や衣類の購入など個別支援に取り組んでいる。買い物中などに地域の人々から声をかけられることも多く、入居者の外出の機会を後押ししている。また、外泊や食事、面会時に散歩支援など家族の協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理しているが少額のお金は本人が使用していた財布に入れもっておられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡先の一覧表を作成し電話希望時は対応できるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に添った飾りつけを一緒にしたり季節の花を飾ったりしている	入居者が食事やレクリエーションをはじめ日中の殆どを過ごす明るいリビングホールには、外出時などの写真や季節の壁面が飾られている。また退去された家族が撮られた風景写真(海苔の養殖)の掲示は、天草の良さを味わえる一枚であり、入居者や来訪者にとっても心和むものである。職員の言葉掛けは方言を交えながらも、入居者視点であり、和やかさとメリハリのある会話からも居心地の良さが伝わってきた。	ホーム内は職員と共にモップがけを一日数回行って下さる方もおられるなど、共用空間を一緒に作り出している。今後も入居者・家族にとっても居心地のよい空間を提供いただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	支障がない限り使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている	家具や小物など馴染みの品の持ち込みを依頼しており、それぞれの居室にはタンスや思い出の写真、送られてくる書物など、その方のこれまでの人生や家族の思いが伝わって来る居室である。また、職員は身体状況に応じ安全な室内環境であるか確認しながら掃除を行っている。居室で過ごす時間が多くなった方にも、採光の具合や声掛け・見守りなど職員が細やかに配慮しているが光景が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に生活できるように環境整備を行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200058		
法人名	有限会社 大矢野会		
事業所名	グループホーム おおやの(みどり)		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上1520番地8		
自己評価作成日	平成27年10月31日	評価結果市町村受理日	平成28年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋造りで、事務所を中心に2ユニットの造りの施設になっており、入居者・スタッフが自由に行き来ができ、お互いに交流し情報を共有することにより、協力できるよう努めています。ホーム内は、談話室と台所を一体化することにより、入居者の状態を把握することができ、すぐに対応できるようしています。隣接する医院との医療連携により、入居者及び家族に安心していただける環境・体制づくりに努めています。また、家族とのかかわりを大切にし、毎月担当者からの近況報告、並びにホーム広報を送付しています。2回/年の家族会は、運営推進会議と合同開催し、多数の皆さんの参加協力を得ることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内研修にて基本理念を学び、敬う気持ちを忘れない対応を心がけるよう再確認した。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへの買い物や、近隣住民も皆さんへの広報配布などを利用者と共に رفتったり、地域のボランティアの方に訪問していただいたりと交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校福祉科実習生やボランティアの受け入れ、運営推進会議の時などに話をする機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催と年2回、家族会を同時に行うことにより随時、意見交換ができるようしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席や家族会への参加も促している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の所在確認常に行い、夜間以外の施錠はしないようにし、自由に出入りができる。身体拘束に関する研修会も行い、スタッフ間の理解も高まっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティング時にスタッフ研修にて再確認を行い、振り返る機会が持てた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は勉強会を行ったが自立支援事業について学ぶ機会をもちたいと思う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者で説明を行っている。一度自宅に持ち帰っていただき、疑問等随時説明を行っている。改定等の際は、家族会や面会時に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で担当者・スタッフ等とゆっくり話す機会を設け、また、家族会・運営推進会議を合同開催し、外部の方も含め意見交換できる場を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月1回開き、その後、各ユニットにてミーティングを開き、意見を聞く場を設け反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で把握に努め、職場環境等意見交換を行いながら、整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修参加後、研修報告を行い、また、ホーム内においても各自テーマを決め取り組み、発表を行っている 研修案内等は回覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に所属、研修会等を通し交流を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人の気持ちに耳を傾けながら、今までの暮らし方や経過を理解し信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護に対する負担などを十分に理解し、安心してホームに任せられるような信頼関係を築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを十分に理解した上で必要とするサービスの説明や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切にし、本人の意思を尊重した介護をこころがけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告にて状態を伝え、また面会時にも随時状態の報告を行っている。面会時には一緒にお茶を飲みながら、ゆっくりできる環境づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との面会や、家族の協力で外出などお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室を行き来されたり、食事時には声を掛け合ったり、利用者同士の交流みられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も餅つき等の行事に参加して頂き協力を得られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにて検討し、できるだけ本人の思いに添えるようなケアの検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とのコミュニケーションの中で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや経過記録、会話などのコミュニケーションの中で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画ができるようスタッフ間でカンファレンスを開き現状の把握を行っている。家族にも現状を説明し意見を聴くようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録に加え、ひやりハットなどでスタッフの気づきなどを共有し、ミーティング時に全員で再確認を行い、再発防止などに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに対応できるようケアの方針を考え、必要に応じ家族の協力もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーや衣料品店への買い物などで地域資源の活用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣医院が主なかかりつけ医となっている。24時間の緊急対応もあり、医療に関する相談もできる体制が整っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックで体調の把握し、異常がみられる場合にはすぐに病院へ連絡できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院との情報交換行い、必要に応じてカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には主治医を含め家族と十分に話し合いを行い、スタッフ全員でケア方針を共有し、家族や本人の希望に添えるように努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、勉強会開き、緊急時のチェック表と緊急時の連絡先の一覧表を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて避難経路や災害時の非難手順の確認を行っている。また、非常食や水など準備し、災害に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は理解しやすい地元の方言だが、丁寧語であることに気を付け、敬う気持ちを込めた声掛けができるように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を把握し、本人の意思を尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は特に日程は決めておらず、自由に過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を確認しながら、その人にあった衣類選びを行っている。また、行事などの時にはお化粧品などの援助も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化により、準備や片づけが難しくなった。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量のチェックを行い、食事量の少ない方にはおやつなどで、本人の好まれるものを提供し、補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所へ誘導を行い、口腔ケアを促している。また体調不良などで洗面所へ行けない方は、居室でのうがいに対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用されている方でも排泄の訴えがある場合にはポータブルトイレなどで排泄ができるように援助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に牛乳の摂取を勧めたり、毎日の排便チェックなどで確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間はなるべく希望の時間に入れるように調整している。また、入浴拒否が続かれる方には無理強いせず、清拭や更衣などで対応し、気分よく入浴ができるよう援助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人に合わせて就寝、起床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため服薬介助の方法を再検討し、スタッフ全員の統一を図った。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや、新聞折り、洗濯物たたみ等の手伝いにて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で、自宅へ外泊される方や、家族とともに外食などを楽しまれている方もおり、ストレス解消や、気分転換になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方にはお小遣いを持ってもらい、外出時などに自分の欲しい物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気兼ねなく会話ができるよう公衆電話が設置しており、自由に使えるようにしてある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者を書いてもらった作品や、行事などの写真の掲示や、季節に合わせた飾りつけなどを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士で話せるように、ソファの配置を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使っていたものを持ってきてもらうようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、各居室など、利用者がよく使用される場所には分かりやすいように掲示し、事故防止のために環境に整備を行っている。		